

特別支援教育なう Vol.12

今回は、夏季休業中に行った「特別支援教育指導力向上研修」と個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用について特集します。

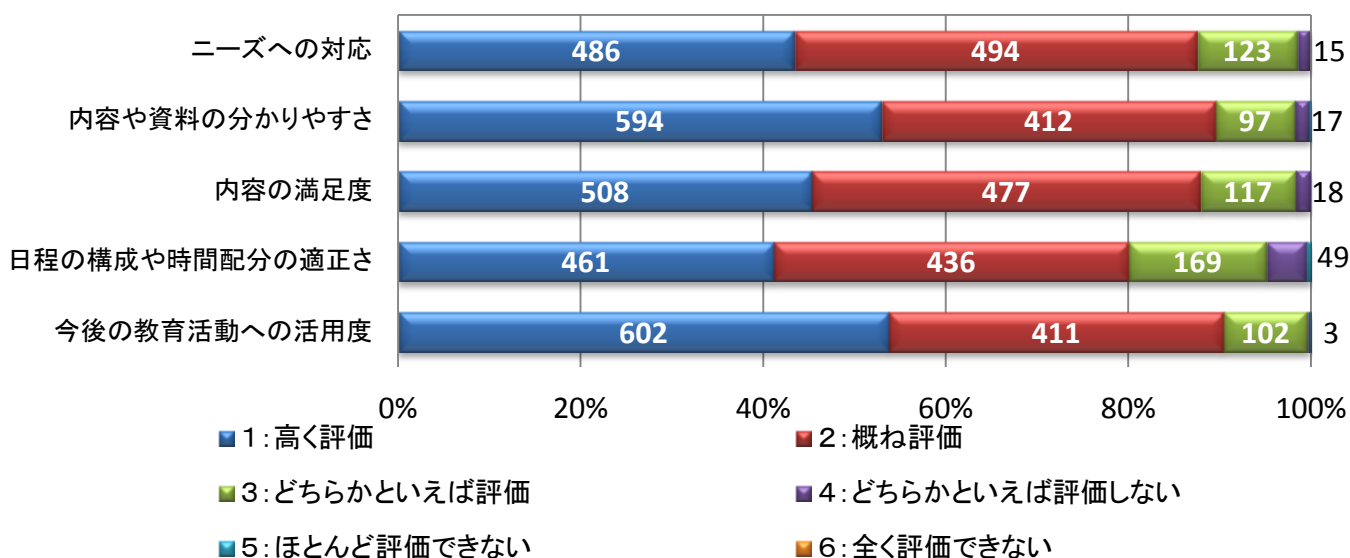
真夏の特別支援教育指導力向上研修

～初年度は 2000 人を超える先生方が受講～

夏季休業中に県内 11 カ所で特別支援教育指導力向上研修が実施されました。発達障がいのある児童生徒に対する指導力向上を図ることを目的とした本研修を、今年度は小中学校通常学級の担任及び高等学校合わせて約 2000 人の先生方が受講しました。

グラフに示すように、受講者アンケートの全ての項目において「高く評価」「概ね高く評価」の回答の合計が8割を超える結果となりました。(数値は全会場からの集計が揃っていないため暫定値)

平成27年度特別支援教育指導力向上研修アンケート集計(暫定値)



【受講者の声(抜粋)】

- 以前から持っていた発達障がいに関する知識をより深めることができた。【小学校】
- すぐ活用できそうなことがたくさん紹介されていてよかった。【中学校】
- 授業のユニバーサルデザイン化は良いことだが、それによって授業の進度が落ちるのではないかということや、クラス全体への指導と個別の指導の両方をどれだけ実践できるか不安がある。【高等学校】
- 合理的配慮について皆で考えることができ、指導の手がかりとなった【小学校】
- それぞれの事例に応じた具体的な実践事例が知りたい【中学校・高等学校】
- ソーシャルスキルトレーニングやICTの具体的な実践事例が知りたい。【中学校・高等学校】
- 講義の内容が多く、1日の研修では理解できない部分があった。【中学校】
- 午後の演習の時間が短く、もっと他の先生方と意見交換したかった。【小学校】

受講した先生方においては、本研修を活用し、各学校において「個別の教育支援計画の作成」「授業のユニバーサルデザイン化」など児童生徒の実態に応じた指導・支援にいかしていただきますようお願いします。

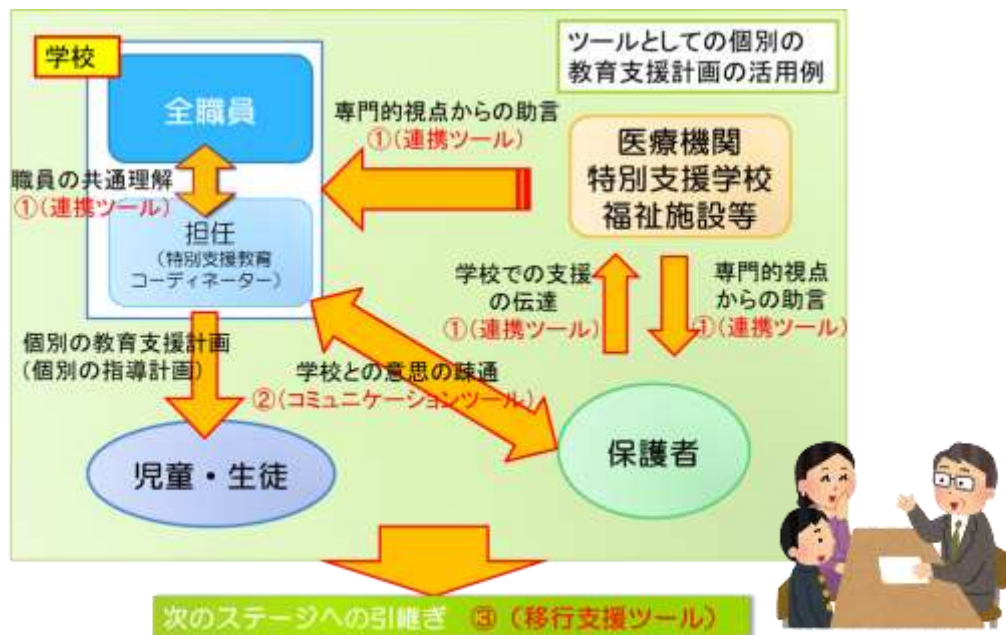
個別の教育支援計画を活用していますか？

個別の教育支援計画は関係機関や関係者が情報を共有し、適切な支援を行うための重要な資料です。そこで、今回の「特別支援教育なう」では、その有効な活用法を紹介します。

一方で、個別の教育支援計画の内容は児童生徒の個人情報が含まれることから、取り扱いや管理には十分な配慮が必要です。作成だけでなく、管理や取扱いについても保護者への十分な説明と理解に努めてください。

1 個別の教育支援計画の活用場面と活用事例

次の図は、児童・生徒、教職員、保護者、関係機関等の連携をモデル化したものです。図のようにそれぞれの場面の連携ツールとして個別の教育支援計画を活用することができます。



場面	活用事例
① 支援内容の検討・共通理解 (連携ツール)	<ul style="list-style-type: none"> 支援の関係者（学校職員、医療、福祉等）が支援内容や支援方法について共通理解を図る。 専門家や特別支援学校の巡回指導や支援依頼の際の資料とする。
② 面談資料 (コミュニケーションツール)	<ul style="list-style-type: none"> 本人及び保護者と将来の進路実現等に向けた校内における支援等の在り方や合理的配慮について検討する際の資料とする。 年度末の校内の支援に関する評価を保護者と話し合う際の資料とする。
③ 一貫した引継ぎ (移行支援ツール)	<ul style="list-style-type: none"> 進路先との連携（引継ぎ）の資料とする。 進学試験における特別な配慮を申請する際の基礎資料とする。

2 個別の教育支援計画を移行支援のツールとして活用するための視点

個別の教育支援計画には、卒業後の次のステージ（進学先や就労先）へ「つなぐ」意識や本人の「希望」や「願い」の実現といった視点を取り入れることも重要です。

例えば、高校生の個別の教育支援計画に、「就職・進学させるため」に必要な学力の他に、どのような生活・社会的スキルを習得すればいいのかを検討し記載することです。是非、個別の教育支援計画に卒業までに身につけておきたい生活・社会的スキル等を盛り込み、個別の教育支援計画を次のステージへ移行する際の有効な資料としてご活用ください。